

「キャンパス・アジア」モニタリング

国際共同教育プログラムの質の向上を目指す日中韓共同の取組

令和元年11月6日

大学の世界展開力強化事業(ASEAN対象プログラム)

令和元年度採択大学連絡会



大学改革支援・学位授与機構

評価事業部国際課長

高等教育資格承認情報センター参事

土光 律子

本日の報告内容

1. モニタリング⁺とは？
2. モニタリング⁺の結果
 - 主な優良事例
 - さらなる取組が期待される点
 - モニタリング⁺の振り返り
3. モニタリング⁺の今後

「キャンパス・アジア」モニタリングとは？

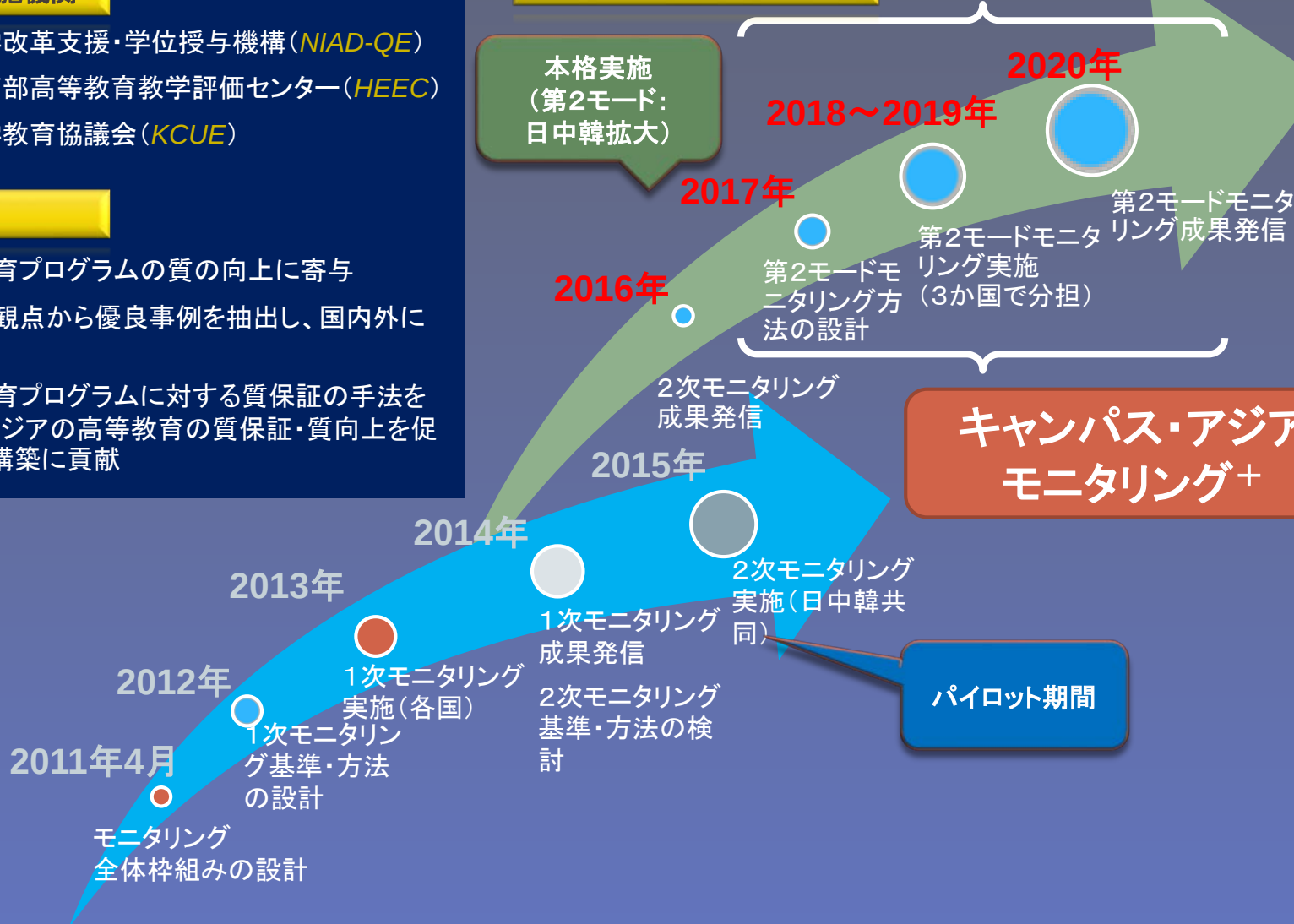
モニタリング実施機関

- 日 本: 大学改革支援・学位授与機構 (NIAD-QE)
- 中 国: 教育部高等教育教学評価センター (HEEC)
- 韓 国: 大学教育協議会 (KCUE)

目 的

- 国際共同教育プログラムの質の向上に寄与
- 教育の質の観点から優良事例を抽出し、国内外に広く発信
- 国際共同教育プログラムに対する質保証の手法を構築し、東アジアの高等教育の質保証・質向上を促進する体制構築に貢献

モニタリングのスケジュール



モニタリングの変遷

日中韓の質保証機関は、過去3回、実施手法を進化させながらも、一貫した目的の下でモニタリングを実施

1次モニタリング(2011-2014):

各国で個別に実施

2次モニタリング(2014-2016):

共同モニタリング

3次モニタリング(2016-):

モニタリング+ ... 共同ガイドラインに基づく分担実施

APQN Quality Award

日中韓の3機関による共同モニタリングの功績が認められ、2018 APQN Quality Awardの「質保証における国際協力賞」を受賞



モニタリング+ 対象プログラム一覧

5

平成28年度大学の世界展開力強化事業タイプA-②: 9件

タイプA: キャンパス・アジア(CA)事業の推進 A-②: 新たにCAに取り組むもの

担当国・機関名	大学名	プログラム名	相手側大学	
			中国	韓国
韓国・KCUE	千葉大学	植物環境イノベーション・プログラム	清華大学、浙江大學	延世大学校
日本・NIAD-QE	東京大学	日中韓教養教育アライアンスによる高度教養教育の充実と「協創型人材」の育成	北京大学	ソウル国立大学校
中国・HEEC	東京学芸大学	東アジア教員養成国際大学院プログラム	北京師範大学	ソウル教育大学校
韓国・KCUE	東京藝術大学	国際アニメーションコース創設に向けた日中韓 Co-workカリキュラム	中国伝媒大学	韓国芸術総合学校
中国・HEEC	東京海洋大学	「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム	上海海洋大学	韓国海洋大学校
日本・NIAD-QE	大阪大学	世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム	北京大学、清華大学、上海交通大学、天津中医薬大学	延世大学校
韓国・KCUE	九州大学	アジア都市・建築環境の発展的持続化を牽引する人材育成のための協働教育プログラム	同済大学	釜山大学校
中国・HEEC	長崎大学	日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業	山東大学	成均館大学校
日本・NIAD-QE	早稲田大学	多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム	北京大学	高麗大学校

モニタリング+ 基本原則

- 国際共同教育プログラムの質の向上を促進すること。
- 3か国共通の基準及び実施方法によりモニタリングを実施すること。
- コンソーシアムとしての優良事例を抽出するために、コンソーシアム単位での進展及び達成を確認すること。
- 国際共同教育プログラムとしての資源の統合及び質保証活動に関する参加大学間の共同性を確認すること。
- プログラムの持続可能性について検証すること。
- 「キャンパス・アジア」に対する学生の声及び提案を重視すること。

モニタリング+ 日中韓共同基準

7

基準

サブ基準

1. 目的と実施

Objectives and Implementation

1. 1. 目的の達成

Achievements of Objectives

1. 2. 実施体制

Organization and Administration

2. 教育プログラムの共同開発

Collaborative Development of Academic Program

2. 1. カリキュラムの統合

Curriculum Integration

2. 2. アカデミックスタッフ・教育

Academic Staff and Teaching

3. 学生支援

Student Support

3. 1. 参加学生の募集

Student Admission

3. 2. 学習・生活支援

Support for Learning and Living

4. 共同プログラムの付加価値(成果)

Added Value of the Collaborative Program (Outcomes)

4. 1. 学生の満足度

Student Satisfaction

4. 2. 単位互換・学位の授与

Credit Transfer and Degree Awarding

5. 継続的な質の向上 Continuous Quality Improvement

モニタリング+ 実施体制

‘CAMPUS Asia’ Joint Monitoring Committee 「キャンパス・アジア」共同モニタリング委員会

- モニタリングに係る重要事項の決定
- コンソーシアムごとの報告書の承認
- 共同モニタリング報告書の承認

‘CAMPUS Asia’ Joint Monitoring Panel 「キャンパス・アジア」共同モニタリング部会

- 自己評価書の確認
- 書面調査
- 訪問調査
- コンソーシアムごとの報告書の作成



モニタリング＋プロセス

【コンソーシアム】自己評価書の作成（2018年6月～10月）

- ・ コンソーシアム共通で、一つの自己評価書を英語で作成

【部会】書面調査（2018年11月～12月）

- ・ 日中韓の部会委員が書面調査を実施（英語）

【部会・コンソーシアム】訪問調査（2018年12月～2019年3月）

- ・ 可能な限り、3か国の大学が集まる機会を利用して実施
 - ✓ プログラム責任者・教職員へのインタビュー
 - ✓ プログラム参加学生へのインタビュー
 - ✓ 責任者・教職員に対する部会委員からのフィードバック・意見交換



【部会】コンソーシアム報告書の作成（2019年4月～6月）

- ・ コンソーシアムごとの報告書（英語版）を関係機関のみに提出（非公表）

【委員会】共同モニタリング報告書の作成（2019年6月～11月）

- ・ 優良事例集（英語版、公表）
- ・ 「キャンパス・アジア」共同モニタリング委員会で確定

モニタリング+で抽出された優良事例の要素

10

プログラムの設計・実施に
おける連携

各大学の特徴・共同性を
考慮したカリキュラム構築

短期プログラム・セミナー実施

相互理解と学習効果向上
の取組(語学・文化学習、
アクティブ・ラーニング等)

国際対応能力の高い
教職員の配置

参加大学横断的なFD活動

基準2

統一的な入学者選抜方法

学生リクルーティングにつ
ながるプログラムの広報

長期留学への動機付けの
工夫

留学前における学生支援

学生への留学先の
学習情報の伝達

留学中における学生支援

学生相互の支援体制
(TA、同窓会等)

基準3

学生の満足度・達成度調査の
実施と分析

学生の留学レポート・成果
物を通じた学習成果の把握

学術論文を通じた学習成果
の把握

単位互換の事前調整と
基礎づくり

単位互換の具体的な
仕組みの共同策定

プログラム修了証の発行

ダブル・ディグリーの
授与方針の策定

基準4

独自のプログラム目的の
共同設定

プログラム目的と全学的
国際戦略の連動

効果的な実務体制

求められる学習成果の
明示と共有

実施体制の明文化
(協定書、ガイドライン等)

参加大学間の円滑な
連絡調整手段

参加大学・教職員・学生との目的
共有(合意文書、定期会合等)

効果的な運営体制

効果的な学内の協力体制

基準1

参加大学共同の自己点検

外部評価

プログラムの情報発信

プログラムの持続可能性の
ための取組

基準5

モニタリング+で抽出された主な優良事例

11

基準1：目的と実施

◆ プログラムの目的と期待される学習成果の明示・共有

世界的な少子高齢化に対して公衆衛生・医療の適切な対応が必要となるなか、特に**アジア**の社会の変容に対して幅広い国際感覚を備えた**リーダーの育成**が、プログラムの喫緊の使命と位置付けられている。

DD/JD Long Short

◆ 効果的な運営体制の構築

参加大学間で様々な課題を協議するための**プラットフォーム**として、大学間のプログラム委員会を設置。さらに、各大学内にプログラム委員会を設置し、大学間の委員会との連携体制を整備。一部の大学では、**学内からの協力を確保**するため、同委員会を国際担当副学長直下の組織と位置付けている。

DD/JD Long Short

モニタリング+で抽出された主な優良事例

基準2: 教育プログラムの共同開発

◆ 地方自治体や民間企業との連携による実践的授業の提供

産学連携のプログラムであるPBL(Project Based Learning)ワークショップは、学生がグローバル企業・団体等の実務家から実践的知識を習得する機会として、先進的なプログラムとなっている。

DD/JD Long Short

◆ 3か国周遊短期プログラム

サマー/ウィンタープログラムの参加学生は、3週間のプログラム期間内に3か国の大学を訪問し、講義、グループワーク、フィールドトリップ、語学研修等に参加する。短期プログラムの参加が、より長期の留学への動機付けとなることが意図されている。

Long Short

モニタリング+で抽出された主な優良事例

13

基準3: 学生支援

◆ ウェブサイトでの情報発信、広報活動

プログラムに関する教育研究情報の蓄積・公表のためのウェブシステムが構築されている。また、入学者選抜の透明性確保の観点から、選抜プロセスに関する情報がウェブサイトで公開されている。

Long Short

◆ 留学前における学生支援

学生の留学先での科目選択を支援するため、各大学のプログラムの主要教員により、コースカタログや期待される学習量などの学習情報が整理されている。

DD/JD Long Short

モニタリング+で抽出された主な優良事例

基準4：共同プログラムの付加価値（成果）

◆ 円滑な単位互換システムの開発

参加大学間での学生交流協定の締結に加え、学習量に基づく**共通の単位の定義**をまとめた公式のガイドラインが整備されている。参加大学間の合意に基づき、派遣先大学で取得した単位が所属大学の単位として認定される。

DD/JD Long Short

◆ 修了証の共同発行

所属大学及び派遣先大学において、プログラムにおける所定の単位を修得した学生に対して、大学卒業時に、**プログラム修了証**を参加大学が共同で授与している。

DD/JD Long Short

モニタリング+で抽出された主な優良事例

15

基準5: 継続的な質の向上

◆ 効果的なレビューの実施

レビュー委員会に学生や、国際共同教育や国際的な質保証に知見をもつ国内外の外部有識者などが参画。レビューを通して得られた提言がプログラムの改善に役立てられている。

DD/JD Long Short

プログラムにおいて毎年開催するワークショップの機会を活用し、キャンパス・アジアの教員会議を実施。特定の課題解決に向けた協議や、運営の効率化・効果の向上のため、プログラムの成果のレビューが行われている。

DD/JD Long Short

モニタリング+で抽出された主な優良事例

16

基準5: 継続的な質の向上

◆ 効果的な内部質保証活動を行うための取組

プログラムの質保証委員会を立ち上げ、参加大学がそれぞれの自己点検に活用できるようなチェックリストの開発を実施。チェックリストはシラバスや試験の内容精査、教員や学生へのヒアリングを通して、プログラムが目的に沿った教育を行っているかの評価を可能とすることを目指している。

DD/JD Long

◆ プログラムの持続可能性のための取組

プログラムがユネスコの認定プログラムとなったことで、今後プログラムへの参加が期待される学生などに対するより強い訴求が可能となる。さらに、企業や公的機関との連携が強化され、プログラムの充実・拡大に資することが期待される。

DD/JD Long

さらなる取組が期待される点の例

◆ 学年暦の違いへの対応

参加大学間の継続的な議論と柔軟な対応により、学年暦の違いに起因する諸問題を解決

◆ 教員の継続的な交流とリクルーティング

より積極的な教員の交流とリクルーティングにより、絶え間ない頭脳循環を実現

◆ 派遣／受入れ人数のバランスの取れた学生交流

参加大学間の連携により学生交流人数の均衡性を確保

◆ ダブルディグリー・プログラムのための共同コアカリキュラムの開発

意義あるダブルディグリープログラムを実現するために、参加大学間で共同のコアカリキュラムを開発

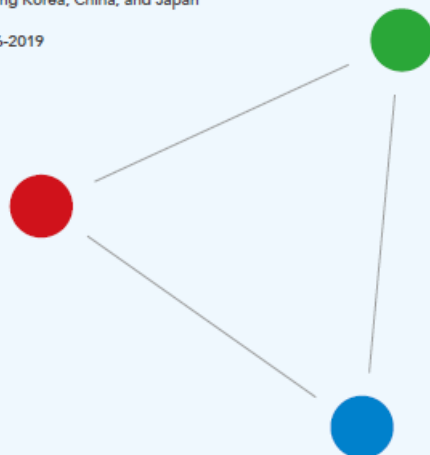
共同モニタリング報告書

18

CAMPUS Asia Joint Monitoring+ Joint Monitoring Report

Good Practices from CAMPUS Asia Consortium
among Korea, China, and Japan

2016-2019



© CAMPUS Asia Joint Monitoring Committee

National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education(NIAQ-QE)
Higher Education Evaluation Center of the Ministry of Education(HEEQ)
Korean Council for University Education(KCUE)

モニタリング+を通して抽出した、各コンソーシアムの優れた取組等を基準ごとに紹介

- 2019年11月公表予定
- 日中韓の質保証機関が協働して作成中
- 優良事例を通じて、国際的な共同教育プログラムを設計・実施する上で重要な要素は何か、高等教育関係者へ示唆を提供

モニタリング+アンケート結果 (1)

- モニタリング+に参加した大学対象にオンラインアンケートを実施
- アンケート結果は、モニタリング実施プロセスの振り返り、共同ガイドラインの改定に活用

(N=27)

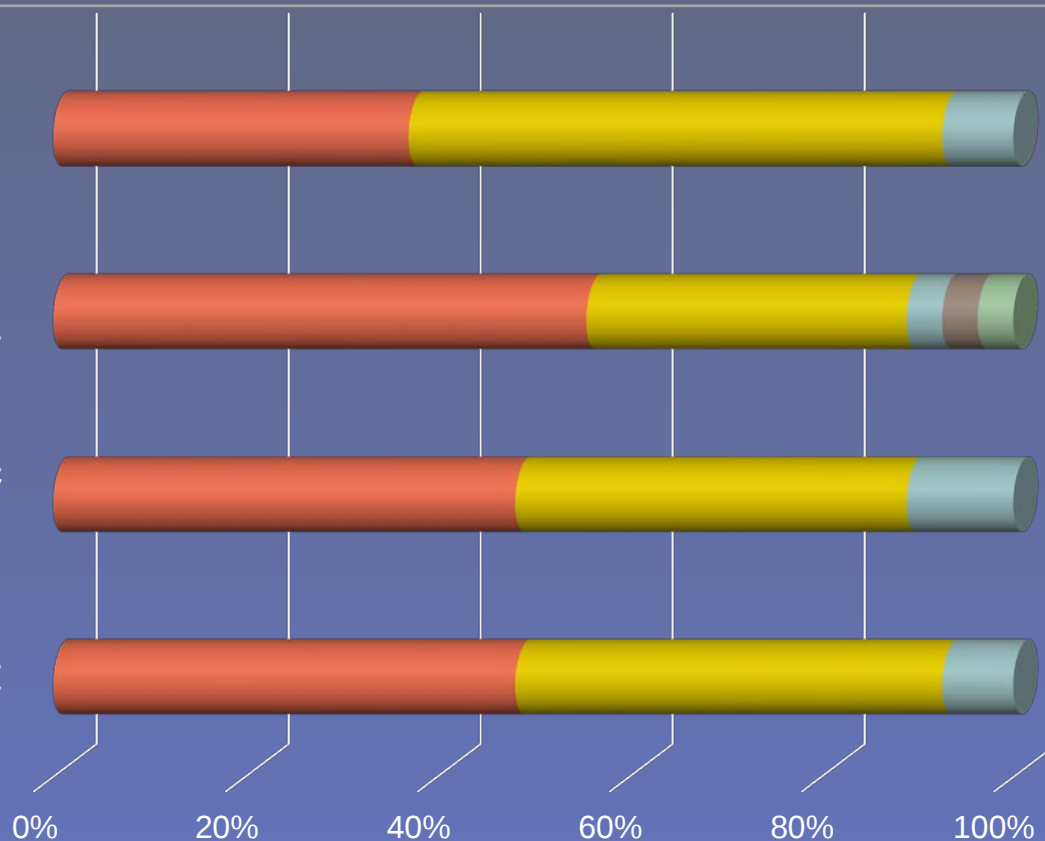
モニタリング報告書からプログラムの改善・向上に資するコメントを得ることができた

日中韓の大学で自己評価書を共同作成したことにより、プログラムの状況や課題を共有することができた

モニタリング+は、日中韓の参加大学が質保証について共に考えを深めるきっかけになった

モニタリング+は、プログラムのレビューと改善・向上に役立った

- 非常にそう思う
- そう思う
- どちらかと言えばそう思う



モニタリング+アンケート結果 (2)

20

(N=27)

モニタリング+の全体スケジュールは適当であった



モニタリング+にかかる全体的な作業量は妥当であった



0% 20% 40% 60% 80% 100%

■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない ■ そう思わない ■ 全くそう思わない

出所: モニタリング+参加大学対象事後アンケート(実施期間: 2019年6月~8月)

モニタリング+アンケート結果 (3)

主なコメント

モニタリング報告書について

- モニタリング報告書はプログラムにとって有益であった。モニタリングを通して、参加大学間でプログラムの振り返りを行い、現状について詳細な情報共有を行うことができた。
- モニタリング報告書は大変に示唆に富むものであった。報告書については参加大学の教員や学生と共有し、また今後この報告書から得られた知見をどのように改善に生かしていくか、検討したい。

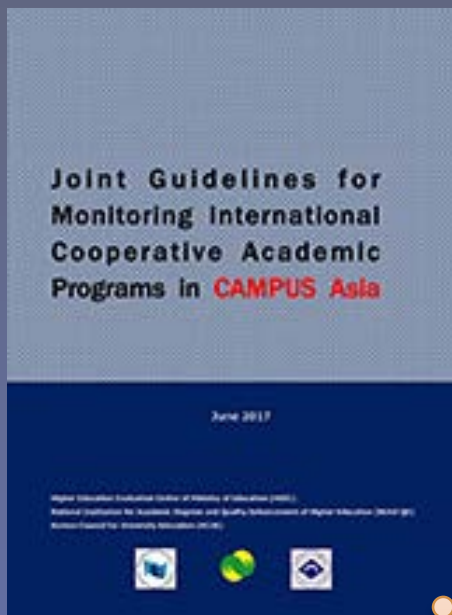
モニタリング全般について

- モニタリング+は、これまでのプログラムの歩みを振り返り、今後の方針を一体となって考える、良い契機となった。

第2モード(2016-2020年度)採択大学のランキング推移一覧

総合 順位	採択校	THE 2020 800位以内	%	THE 2016-2017 800位以内	%
日本	15	7	47%	10	67%
中国	14	9	64%	8	57%
韓国	10	6	60%	6	60%
国際性	採択校	THE 2020 平均値	THE 2016-2017 平均値	増減	
日本	15	36.1	27.6	8.6	
中国	14	50.6	36.1	14.5	
韓国	10	44.8	38.8	6.0	

(独)大学改革支援・学位授与機構調べ



共同ガイドライン『Joint Guidelines for Monitoring International Cooperative Academic Programs in CAMPUS Asia』

- モニタリングの原則、実施体制、プロセス、基準、質保証機関・レビューワーに対する留意事項を明記
- このガイドラインを基に、モニタリング⁺を実施

モニタリング⁺の参加大学や日中韓の質保証機関からの意見を踏まえ、今後改定を行う予定

モニタリング+の成果発信

- モニタリング+で得た優良事例や、質保証の共同ガイドラインを、日中韓のみならず、アジア等広く海外に発信

→ 高等教育機関が国際的な共同教育プログラムを設計・実施する際、また質保証を検討する際のヒントに！

◆ 国際会議での発表

INQAAHEやAPQNといった、国際質保証機関ネットワークの年次会合等で発表

◆ ウェブサイトを通じての発信

各質保証機関HPに報告書などを掲載し、関係機関及び社会に発信



「キャンパス・アジア」モニタリングウェブサイト

https://www.niad.ac.jp/n_kokusai/campusasia/



For International Mobility and Quality in Higher Education



高等教育資格承認情報センター
National Information Center
for Academic Recognition Japan

Established on September 1, 2019

<https://www.nicjp.niad.ac.jp/en/>



NIAD-QE
National Institute for Academic Degrees
and Quality Enhancement of Higher Education



高等教育資格承認情報センター National Information Center for Academic Recognition Japan

◆ 目的

- 日本の高等教育資格の国際通用性の確保
- 諸外国との円滑な資格の承認に貢献すること

◆ 業務内容

- (1) **日本**の高等教育制度・資格に関する情報提供
- (2) 東京規約締約国を主とした**外国**の教育制度・資格に関する情報提供
- (3) 諸外国の国内情報センター（NIC）等との連携
- (4) 各種調査研究



N I C専用ウェブサイトの開設

9月1日公開開始

<https://www.nicjp.niad.ac.jp>



高等教育資格
承認情報センター

JP EN

▲ ▲ ▲

サイト内検索

検索

日本の教育制度について

高等教育機関一覧検索

外国の教育制度について

ニュース&イベント

Q & A

センターについて

For international mobility and quality in higher education

高等教育資格承認情報センター

National Information Center
for Academic Recognition Japan



学校名で検索



教育機関の種類



資格の種類



所在地

🔍 検索

高等教育機関の種類の説明(ウェブサイト)＜専門職大学の例＞

The Japanese Education System

Overview of Japanese Education System

Types of Higher Education Institutions

Higher Education Institutions

Admission to Higher Education Institution

Quality Assurance System

Assessment of Academic Achievement

クリック

Professional and Vocational University (PVU)

PVU is a type of university that pursues teaching and research in highly-specialized fields applicable abilities needed to take on specialized work. However, programs in Medicine, and Veterinary Medical Science cannot be established at PVU.

Qualification awarded	Bachelor's degree (Professional) *Some PVUs divide their courses into two levels - first half (前期 <i>zenki</i>) (2 or 3 years) and second half (<i>zenki</i>) only at such institution, Associate Degree (Professional) is awarded.
Program length	4 years
Requirements for completion	Enrollment for 4 years or more and 124 or more credits earned. The credits include skills training, or experiment, and within those 40 credits, 20 or more must be earned through skills training, or experiment.
Early graduation	Students who have enrolled for 3 years or more at a PVU and have earned 80 or more credits may graduate early.

高等教育機関リスト(ウェブサイト) <検索結果一覧>

大学・高専・省庁大学校

基本情報

教育機関の種類	短期大学	
授与する資格	短期大学士	
学校名	愛国学園短期大学	Aikoku Gakuen College
住所	〒133-8585 東京都江戸川区西小岩5-7-1	
連絡先	03-3658-4111	
認証評価	— 認証評価機関連絡協議会ウェブサイト（日本語）  — 認証評価機関連絡協議会ウェブサイト（英語） 	
公式ウェブサイト	— 愛国学園短期大学 	

短期大学士

取得要件	短期大学の卒業 ※2006年以降の短期大学卒業者に授与	
授与機関	短期大学	
標準修業年限(年)	2	3
必要単位数	62 (標準修業年限が2年の場合)	93 (標準修業年限が3年の場合)
ISCED2011	544	
取得後の進学先	大学への編入学、専門職大学への編入学	
接続可能な資格	学士 、 学士(専門職)	

クリック

【基本情報】

教育機関の種類
授与する資格
学校名・住所等

認証評価
公式ウェブ

<資格情報へ移動>

資格の取得要件
授与機関
標準修業年限
必要単位数
ISCED2011
取得後の進学先
接続可能な資格



1. 日本の教育制度等の情報提供（3）

刊行物：高等教育・質保証システムの概要＜日本＞

日本の高等教育制度や、
質保証制度を紹介。

2019年9月 第3版刊行

日本語

英語





2. 外国の教育制度の情報提供（1）

刊行物：高等教育・質保証システムの概要＜諸外国＞

諸外国の高等教育制度や、
質保証制度を紹介。

現在14カ国
一部日英二か国語

日本語



英語





その他：国際連携事業

- ・国際連携ウェブサイト

<https://www.niad.ac.jp/consolidation/international/>

- ・メールマガジン(2015年開始)

登録者:1,400名

セミナー、ワークショップなどもお知らせ



ご静聴ありがとうございました